

【全体概要】

愛知県では、「巨峰」、「クイーンニーナ」等の赤色・黒色品種で夏期の高温による着色不良が発生し大きな問題となっている。アブシシン酸(以下ABA)は、果房に散布することで果実の着色を向上させることが知られているが、当該技術を産地に広く普及させるためには、地域の状況に合わせて適切な散布方法や時期を検討する必要があることから、本事業において検証する。その際、安価なマイコンと土壤水分、温湿度、重量センサーを活用してABA散布果実の収穫前管理の適切な条件についても検証する。

新品種・新技術等の概要

アブシシン酸(以下ABA)の果房散布によるブドウの着色向上

ABAの散布濃度、時期及び方法について現地実証する。



散布あり 散布なし
写真 収穫時の果皮色に及ぼすABA散布の影響

低コスト環境測定装置によるブドウ栽培の見える化

マイコンを使用し、安価に自作可能な測定装置により、土壤水分、ブドウ果実重量等を経時的に記録する事で、栽培環境がブドウの果実肥大等にどのように影響するかを明らかにする。



写真 マイコン測定装置

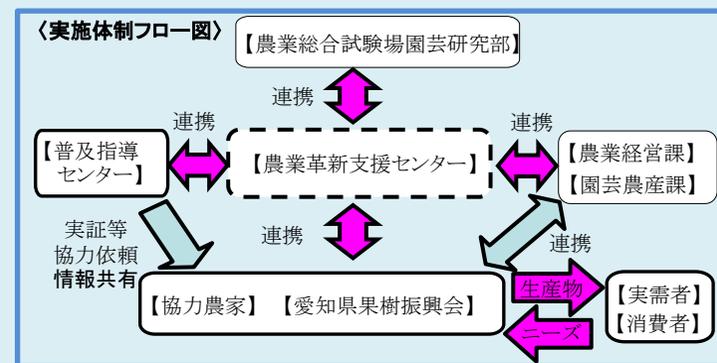
主な取組内容

○県内3カ所の実証ほにおけるABA散布効果の実証
→ABA散布により着色は向上した。

○低コスト環境測定装置によるブドウ栽培の見える化
→測定方法等を検討し、一部データを取得できた。

○実証ほの試験結果について検討会議を開催

実施体制図



農業革新支援センターが中心となり、農業総合試験場と協力し、生産者・実需者・消費者との連携を図りながら事業の調整・進行管理を行う。

課題と今後の対応

- 実証ほにおける栽培試験 → R5年度継続実施中
 - ・ ABAの果房散布によるブドウの着色向上
→ ABA植調剤が新たに登録されたため、植調剤を使用して試験実施。
 - ・ 低コスト環境測定装置によるブドウ栽培の見える化

- 手引きの作成
→得られた知見はABAの果房散布によるブドウの着色向上技術導入の手引き(マニュアル)としてとりまとめ、普及推進に活用。